



# 総社宮

第四号

平成十八年二月社報

1月23日 雪の朝

## 新年のご挨拶

宮司 松岡重彰

新年も改まり、皇紀二六六六年（平成十八年）輝かしき新春を迎え、聖寿の万歳、皇室の弥栄と国家の安泰、御氏子の皆様の御健康を祈念し、謹んでお慶びのご挨拶を申し上げます。

さて、昨年より総社宮におきましては境内の整備を始め、境内植樹祭、神社山林の整備等、目覚ましい復旧活動に氏子町内各位の方々にご尽力賜りました。今までのような鎮守の森の姿は失われましたが、境内に植えられた苗木の一つ一つに、新しい鎮守の森に向けての多くの皆様方の祈りや願いが、総社宮崇敬の念として息づいていると確信いたしました。自然の力は恐ろしくもあり、素晴らしくもありません。そこに生きる我々人間もまた同じものだと考えます。

悲しい出来事、目を覆う様な事件を多く耳にする昨今、今一度原点に戻り大切なものを守らなくてはならないものについて、家庭といふ小さな社会から話し合い学びあうか。

新春を迎え、氏子各位の皆様方におかれまして、この年が実り多き年でありますことを心よりお祈り申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

### 山林整備

一昨年の台風以来続けておりました復旧事業も、皆様のご尽力によりまして一段落し、境内におきましてはお手植えいただきました苗木の生長を楽しみにするばかりです。しかしながら、今も山林の倒木は放置されたままの所が多く、神楽尾山の南にあります総社宮所有の山林も、手を入れることなく木の傾くがまま、倒れるがままの状態でした。このまま時が経てば木は朽ちて山が荒れるばかりと、総代会で協議の結果、倒木の撤去、また、残った木もある程度切り倒し、整地した後に森林組合の補助を受けて、新たに植樹することに決まりました。それを受けて昨年十一月頃より総代及び氏子有志の方々の御協力により、山林の整備を始めることができました。この社報を



山林整備・倒木の除去

しております。昨年からの続きの植樹ですが、今回も多くの方々のご参加をよろしくお願ひ申し上げます。

### 新嘗祭

十二月十日、例年通り湯立て神事と新嘗祭を執り行いました。新嘗祭はその年にとれた新穀を神様にお供えし、また、自分たちも宴を催して、穀物の実りに感謝をするお祭りです。総社宮

たえで  
だした餅  
いたつき  
て鏡を  
、餅の  
初詣の  
に他に  
いに行  
ら紅ま  
っ白の  
し小餅  
ゃつを  
った作  
皆っつ  
様てお  
にお供

餅つき

の参の  
後、列後、  
者の湯  
の皆笹  
さんをを  
お祓釜  
いたに  
しま浸  
したし、



←湯立て神事

では新穀のお供えだ  
けを執り行つていま  
す。同時に神事は、  
「湯立ての出来を占  
う」。年の米の出来を  
神事、大きな釜に  
湯を沸かし、竹紙に  
垂れ取り付けた湯引  
でかき混ぜ、鉢を引  
き抜いた後に釜に立  
ち上がる湯を見て占  
うもの、早稲、中  
稲、晩稲と続けて三  
回執り行います。そ

雪が降った前年に比べ  
た、歳旦祭の人形を  
お持ち下さった方に  
は、年末に境内でつ  
いたお餅とミカンを  
お渡ししました。



紅白の小餅作り

歳旦祭

配りいたしました。

晴天今年、恵まれ、し  
や雲も掛かりまし  
たが元旦の日の出  
も無事拝むことが  
できました。

とんど  
一月十四日は  
とんど



